建屋周辺の地下水位、汚染水発生の状況

TEPCO

2021年10月28日

東京電力ホールディングス株式会社



1	建屋周辺の地下水位	、サブドレン等のくみ上げ量について	P2∼ 3
_	メモルコングンパー カトル・	、フノーレノ・サッパの上り星にフいし	r Z · J

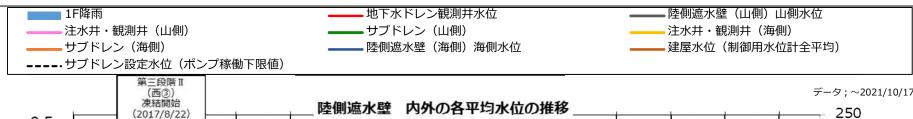
2. 汚染水発生の状況について P4

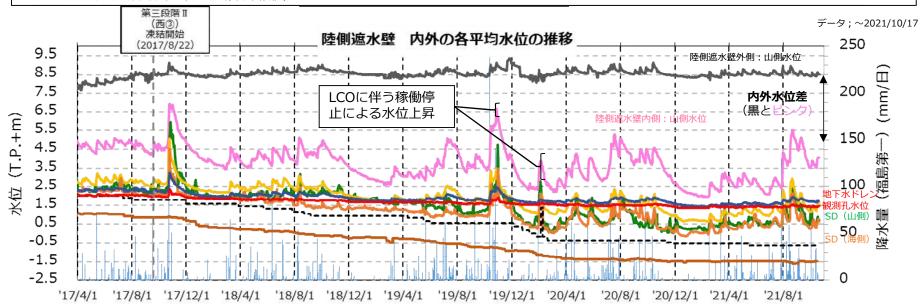
参考資料 P5~18

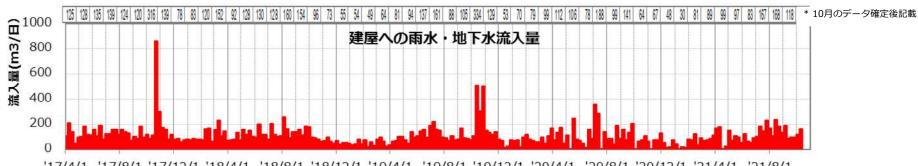
1-1 建屋周辺の地下水位の状況



- 4号機西側のK排水路と陸側遮水壁の交差部近傍の測温管150-7Sについて、測定温度が0℃を上回る状況を確認した。 (P7の温度分布図を参照)
- 陸側遮水壁内側エリアの地下水位は、山側では降雨による変動はあるものの内外水位差が確保した状態を維持している。
- 地下水ドレン観測井水位は約T.P.+1.4mであり、地表面から十分に下回っている(地表面高さ T.P.2.5m)。



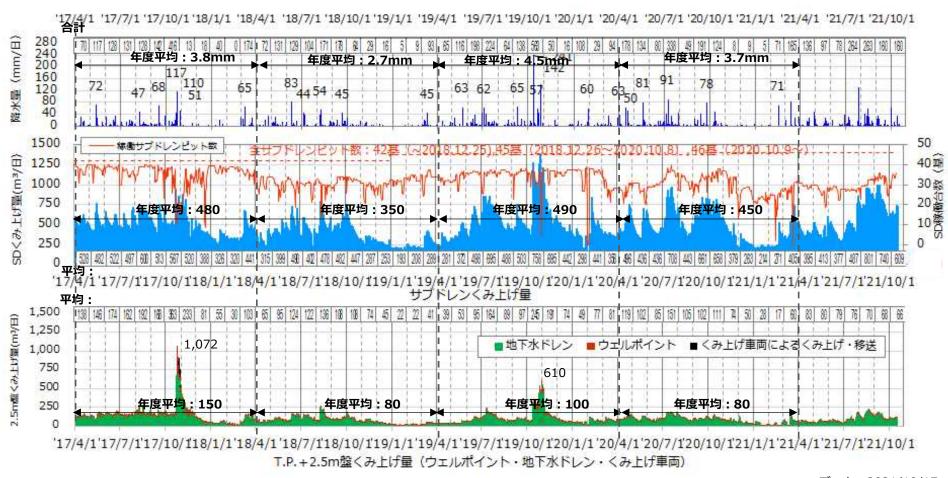




1-2 サブドレン・護岸エリアのくみ上げ量の推移



- ■重層的な汚染水対策により、地下水位の制御性が向上し、特に渇水期においては、より少ないサブドレン稼働台数で地下水 位を管理することが可能となっている。
- ■護岸エリア(T.P.+2.5m盤)においては、2020年度の降雨量(累計雨量1,345mm)は平年並みで、2019年10月の台風時のような大幅なくみ上げ増となることもなく、2020年度のくみ上げ量の平均値は約80m³/日だった。

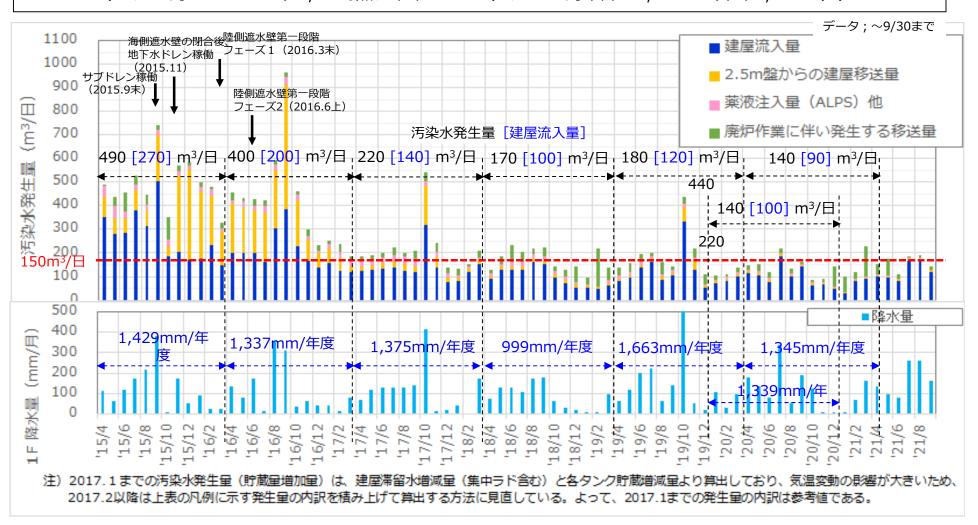


データ;2021/10/17

2-1 汚染水発生量の推移



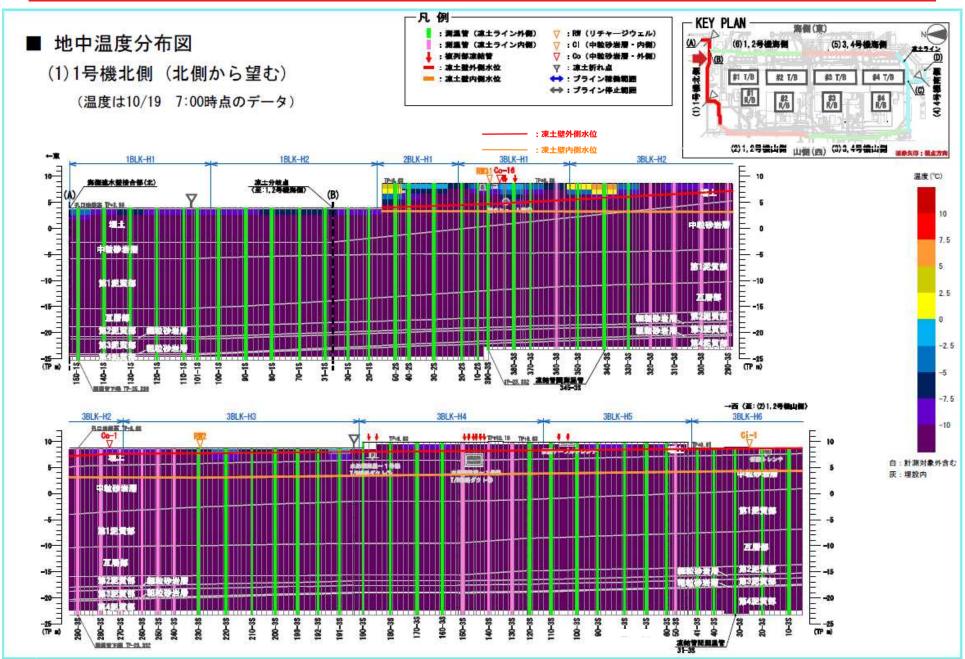
- 陸側遮水壁、サブドレン等の重層的な対策の進捗に伴って、建屋流入量・汚染水発生量共に減少しており、2020年の汚染水発生量は約140m³/日であったことから、中長期ロードマップのマイルストーンのうちの汚染水発生量を150m³/日程度に抑制することについて達成した。2020年度の汚染水発生量は約140m³/日となった。
- 2021年9月は、降水量が少ないこともあり、建屋流入量は減少している状況。今後もサブドレン稼働状況含め監視を継続する。(降水量 7月:264mm(平年175mm)、8月:263mm(平年152mm)、9月:160mm(平年218mm)、10月:224mm(10/26時点、平年226mm)、4-10月累計:1,221mm(平年1,167mm))



【参考】地中温度分布および 地下水位・水頭の状況について

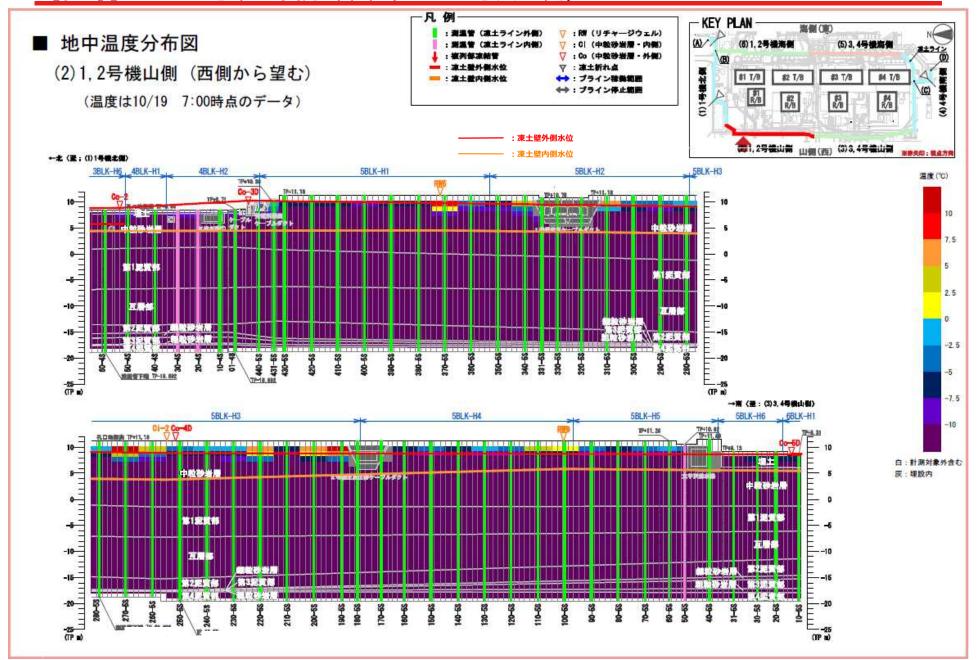
【参考】1-1 地中温度分布図(1号機北側)





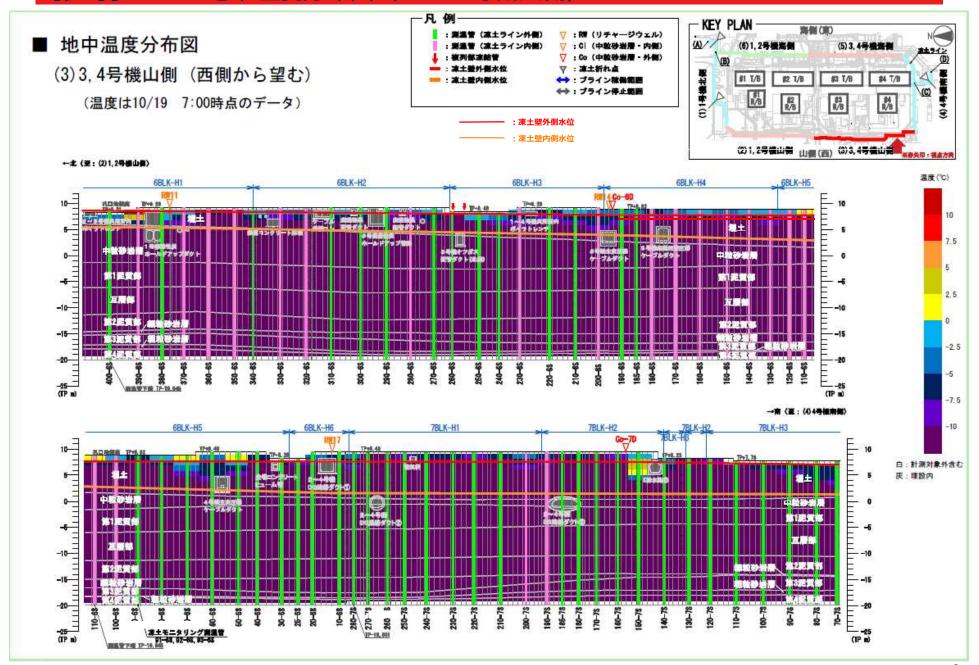
【参考】 1-2 地中温度分布図(1・2号機西側)





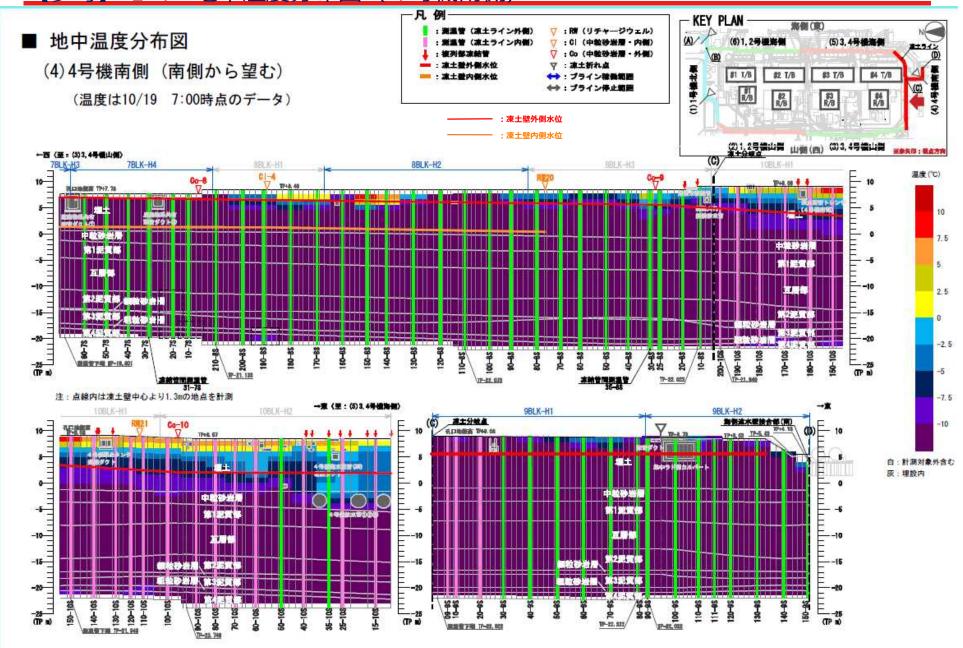
【参考】 1-3 地中温度分布図(3・4号機西側)





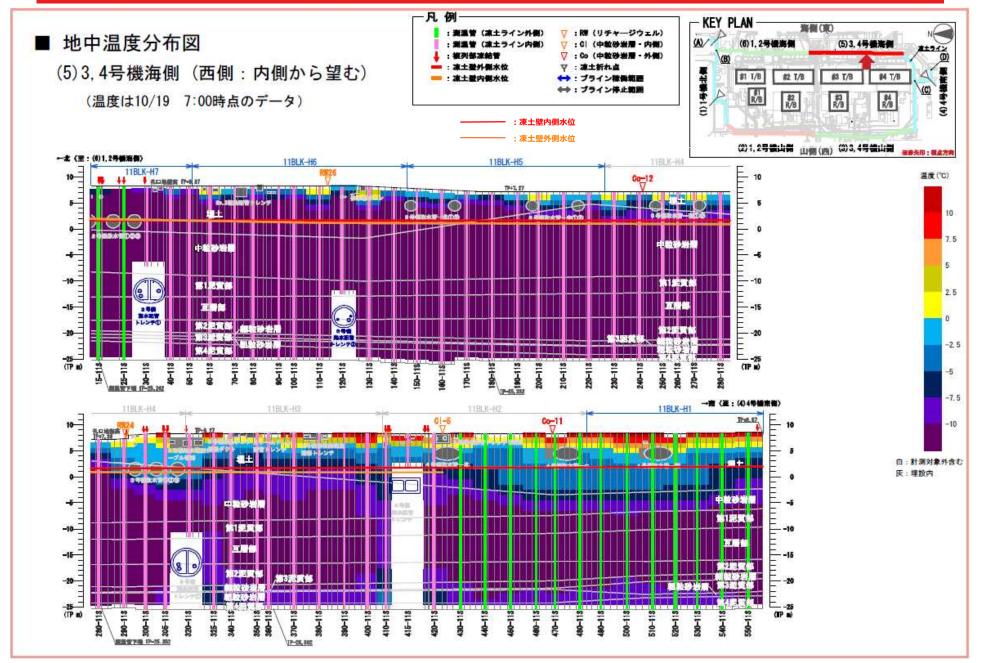
【参考】 1-4 地中温度分布図(4号機南側)





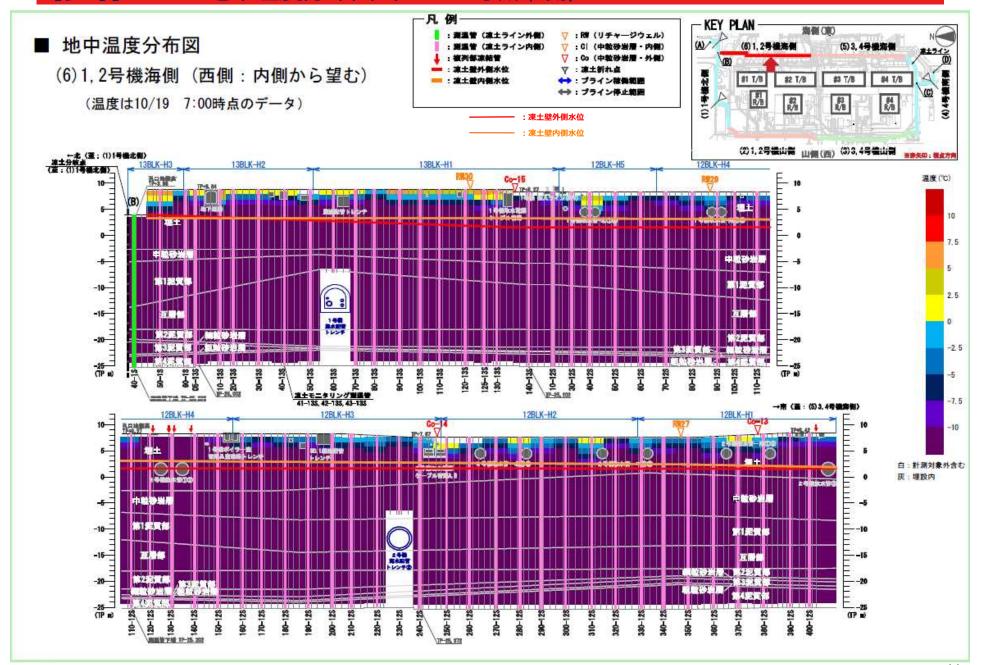
【参考】 1-5 地中温度分布図(3・4号機東側)





【参考】 1-6 地中温度分布図(1・2号機東側)

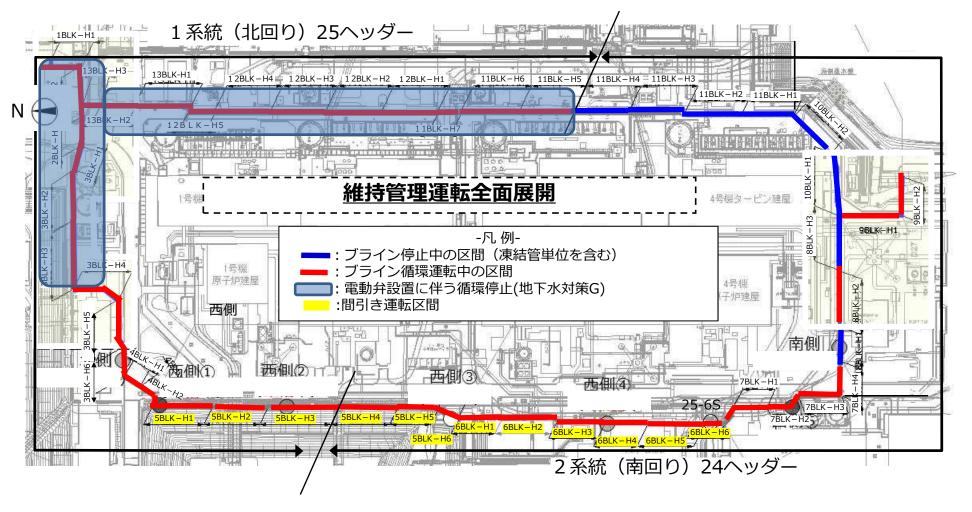




【参考】1-7 維持管理運転の状況(10/12時点)



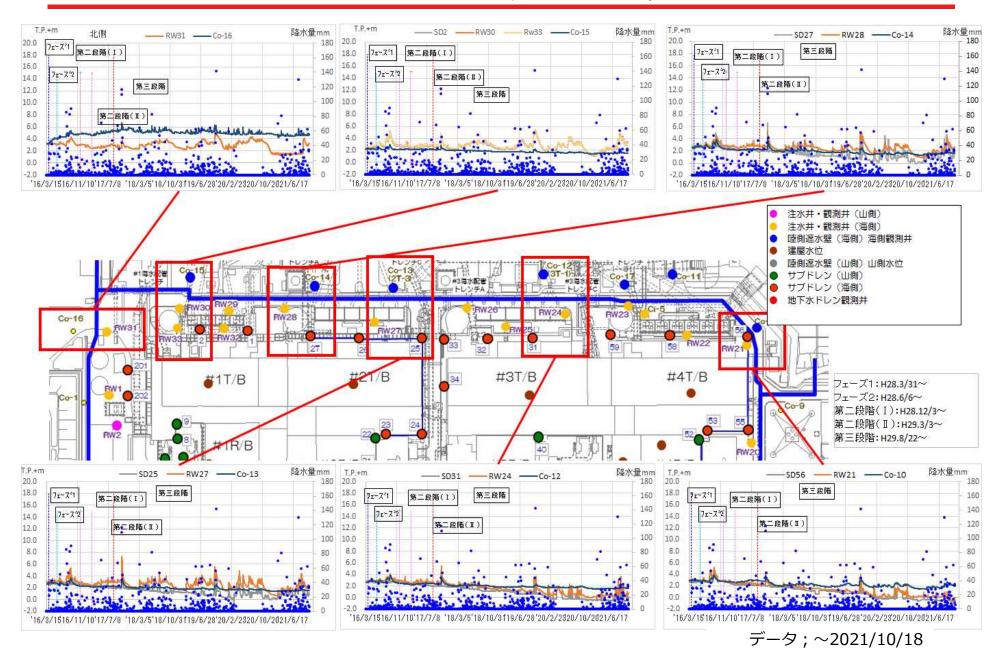
- 維持管理運転対象全49ヘッダー管(北回り1系統25ヘッダー、南回り2系統24ヘッダー)のうち、8ヘッダー管(北側0,東側5,南側3,西側0)にてブライン停止中。
- 電動弁設置に伴う工事:10月14日まで



[※] 全測温点-5℃以下かつ全測温点平均で地中温度-10℃以下でブライン循環を停止。ブライン停止後、測温点のうちいずれか1点で地中温度-2℃以上となった場合はブラインを再循環。なお、これら基準値は、データを蓄積して見直しを行っていく。

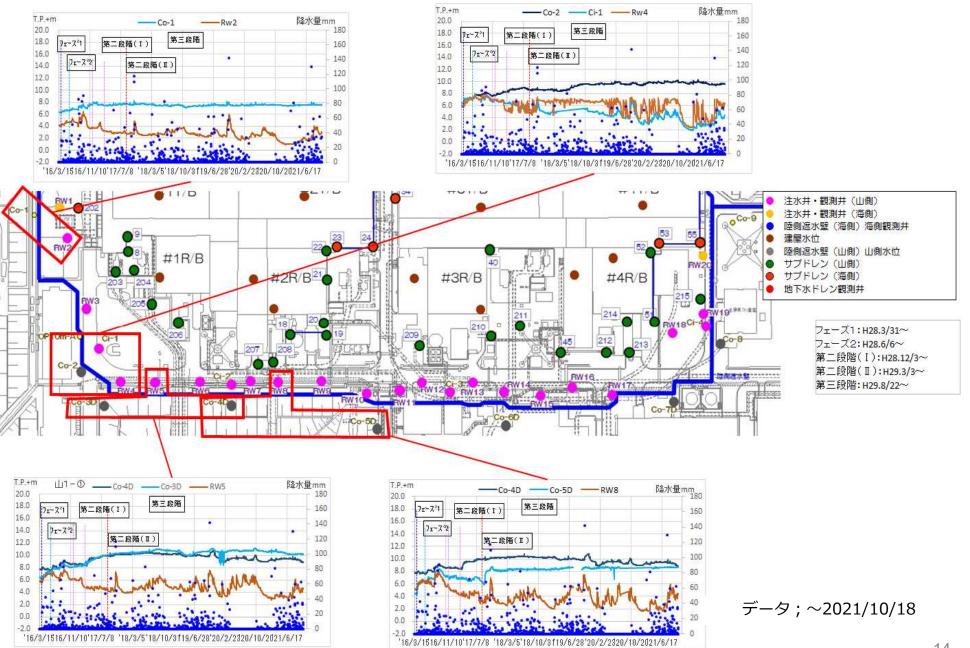
【参考】 2-1 地下水位・水頭状況(中粒砂岩層 海側)





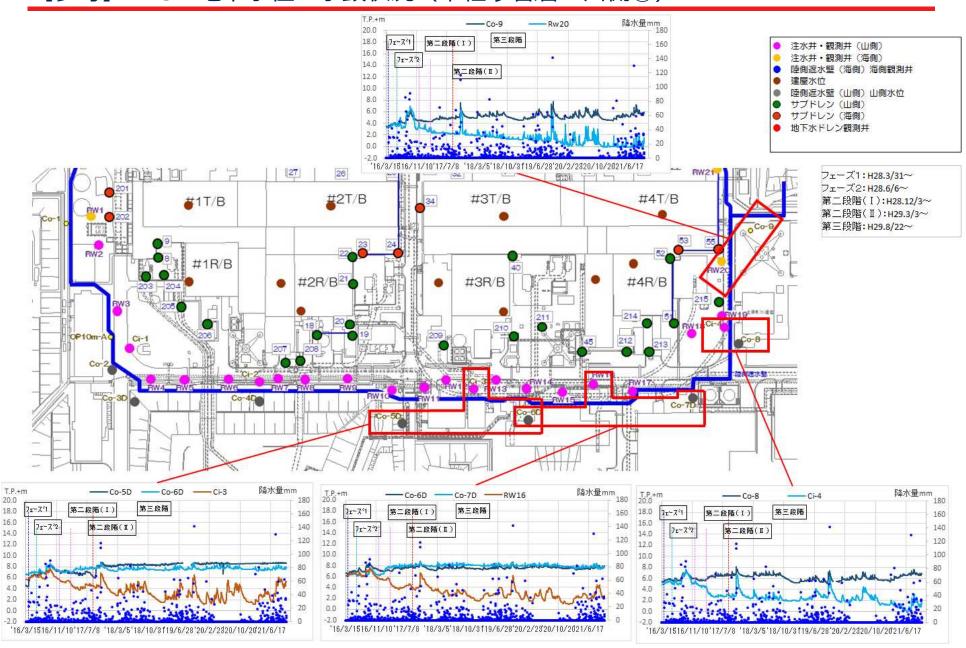
【参考】 2-2 地下水位・水頭状況(中粒砂岩層 山側①)



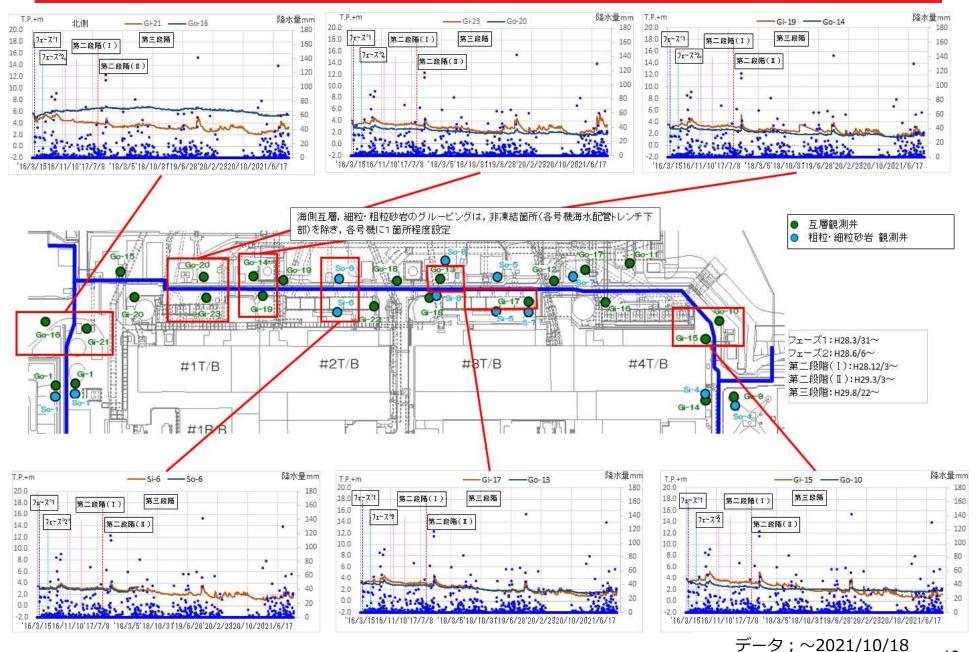


【参考】 2-3 地下水位・水頭状況(中粒砂岩層 山側②)



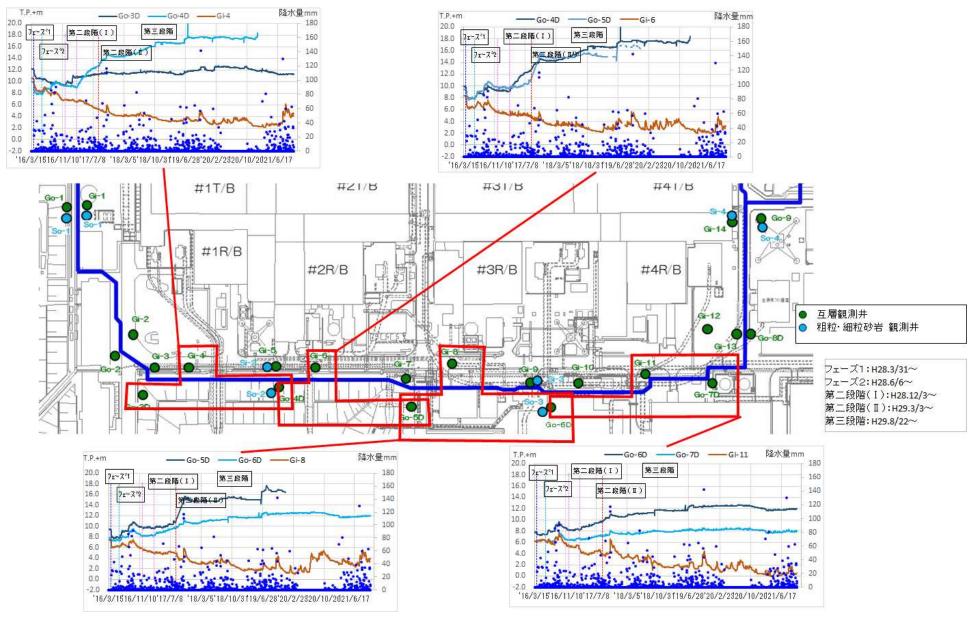


【参考】 2-4 地下水位・水頭状況(互層、細粒・粗粒砂岩層水頭 海側)**T=PCO**



16

【参考】 2-5 地下水位・水頭状況(互層、細粒・粗粒砂岩層水頭 山側**)TEPCO**



データ;~2021/10/18

【参考】サブドレン・注水井・地下水位観測井位置図



